



寒空の下でも、乾布まさつを笑顔で張り切る園児たち



Nursery School
保育園紹介

乾布まさつや食育で 心身ともに健やかに

水広保育園

緑区諸の木 3-802



園児数 125人

先生 24人

(うち正規スタッフ
は23人)

毎朝の乾布まさつで 丈夫な体づくり

「水広保育園」は、同じ緑区内にある「滝の水保育園」の姉妹園で、豊かな自然が残る諸の木・大清水エリアにあります。家庭のように居心地のいい場所、心身ともに健全な子どもを育成することを理念としています。

毎朝の「乾布まさつ」が一日のスタートです。副園長の太田先生の声を合図に、上半身ハダカの子どもたちがタオルを片手に園庭に集合。「いち、に、さん」の号令に合わせ手に持ったタオルで腕や背中をさすります。北風の寒さがこたえる季節ですが、子どもたちはいたって元気。実に楽しそうに行っています。

最初は、子どもにとって背中をさす動作が難しいのですが、毎日続け

るとどの子もできるようになります。「続けることで子どもたちが風邪を引きにくくなっています」と太田先生は自信をもって話しています。

遊戯室での給食時間 自然と食育の場

子どもたちの大好きな給食の時間には、遊戯室がランチルームに早変わり。幼児以上の各クラスから配膳係が4〜5人出てみんなの席に給食を配



ランチルームでは、4〜5人の班になってテーブルを囲む



食事運ぶ配膳係の子どもたちは、「いただきます」のあいさつ係も

ります。日によって組み合わせは変わりますが、年長と年少といった具合に異年齢の子どもが同じ空間で給食を食べます。年上の子の箸使いを真似したり、遊ぶ空間と食べる空間を分けることで生活の区切りが生まれるなど、ランチルームを設けるメリットは多いそうです。

月に一度、「おこさまランチプレート」や「バイキング」なども実施。給食の楽しさを演出し、残さず食べる習慣をつけ、食べることをもっと好きになってほしい、という思いが込められています。

